

病害虫発生予察特殊報 第1号

作物名：キウイフルーツ

病名：キウイフルーツかいよう病（Psa3系統*）

病原菌：*Pseudomonas syringae* pv. *actinidiae*

1 発生確認経過

平成28年4月、南信地方のキウイフルーツ栽培ほ場において、キウイフルーツかいよう病の特徴である赤色の樹液の漏出が認められた。

4月中旬にサンプルを採集し、長野県南信試験場で病原細菌を分離し、果樹試験場でマルチプレックスPCR法により遺伝子診断を実施するとともに、農水省名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、キウイフルーツかいよう病のPsa3系統*であることが判明した。

キウイフルーツかいよう病（Psa3系統）は平成26年5月に愛媛県において国内で初めて確認され、これまでに、全国13都県で確認されているが、本県では初めてである。

注*：現在、世界中のキウイフルーツかいよう病には、病原性の異なるPsa1, Psa2, Psa3, Psa5の4系統の存在が確認されているが、平成2年に長野県では比較的病原性の弱いPsa1系統の発生を確認し、特殊報を発表した。

2 病徴及び被害

- (1) 本病は枝幹、葉、花蕾、新梢に発生する。春から梅雨期頃には、葉、花蕾、新梢で、冬から翌春には枝幹で発病がみられる。
- (2) 枝では、2月頃から症状が見られ、葉柄痕、傷口等から細菌を含む白または赤色の樹液を漏出し、のちに乾いて褐変する。
- (3) 葉では、褐色斑点の病斑を生じ、病斑周囲には黄変（ハロー）を伴うが、明瞭でない場合もある。
- (4) 新梢では筋状の亀裂を生じ、先端が黒変して枯死する。



図1 赤色の樹液の漏出(H28.4.18)



図2 葉の病徴(H28.5.2)

3 発生生態

- (1) 本病は雨媒伝染し、強い風雨により発病が著しく助長される。
- (2) せん定時の器具や接ぎ木によっても伝染する。
- (3) 一次伝染源は枝幹から溢出した細菌（液、粘塊）で、葉は気孔、傷口等から、枝では傷口から感染し、二次伝染を繰り返す。
- (4) 本病原菌の生育に好適な温度は10～20℃程度で、夏季の高温期には発生が停滞する。
- (5) 既発生国ではPsa3系統は病原性が強いとされ、緑色果実品種より黄色果実品種で被害が大きいとの報告もあるが、国内では明確な知見は得られていない。

4 防除対策

- (1) 病原菌が増殖しやすく、菌密度が高い状態となる発芽期～果実肥大期、収穫後～発芽前に薬剤を散布する（表1）。
- (2) 発病樹は発症部位の基部寄りから切除を行い、埋没又は焼却処分する。なお、病徴が著しい感染樹は伐採処分する。主幹伐採後、切株から樹液が流出するため、切り口をビニール袋等で覆い、樹液の飛散を防止する。
- (3) 花粉によって伝染する恐れがあるので、感染樹の花粉は絶対に人工受粉に使用しない。
- (4) 発病樹の伐採やせん定に使用した器具などから感染するので、消毒液で消毒する。
- (5) 苗木、穂木、花粉等は感染のおそれのないものを使用し、来歴不明なものは用いない。
- (6) 傷口から感染するため、せん定後は必ず傷口に癒合促進剤（トップジンMペースト）を塗布する。また、防風垣や防風ネットによる風対策を行う。
- (7) 適宜、栽培管理時に疑似症状がないかどうか確認を行うとともに、疑わしい症状がある場合には最寄りの農業改良普及センター、病害虫防除所に問い合わせる。

表1 キウイフルーツかいよう病に使用できる薬剤

農薬名	一般名	FRAC コード	希釈倍数	散布時期	使用回数
コサイド3000	銅水和剤	M1	2000倍	収穫後～果実肥大期	—
ICボルドー66D			25～50倍	収穫後～発芽前	—
銅ストマイ水和剤	ストレプトマイシン・銅水和剤	25+M1	600～800倍	休眠期～蕾出現前	4回以内
カスミンボルドー カッパーシン水和剤	カスガマイシン・銅水和剤	24+M1	500倍	休眠期	4回以内
			1000倍	発芽後叢生期 (新梢長約10cm) まで	4回以内
カスミン液剤	カスガマイシン液剤	24	400倍	収穫90日前まで	4回以内
			200倍(樹幹注入)	収穫後～落葉前まで	1回
アグレプト水和剤	ストレプトマイシン水和剤	25	1000倍	収穫90日前まで	4回以内
アグレプト液剤			1000倍(樹幹注入)	収穫後～落葉前まで	1回
アグリマイシン-100	オキシテトラサイクリン・ストレプトマイシン水和剤	41+25	1000倍	落花期まで	3回以内
トップジンMペースト	チオファネートメチル剤	1	原液(塗布剤)	剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	3回以内

※ストレプトマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内（うち樹幹注入は1回以内）（農薬登録内容：平成28年5月11日現在）

※カスガマイシンを含む農薬の総使用回数は4回以内（うち樹幹注入は1回以内）

連絡先 長野県病害虫防除所
 所長：久保田純司
 担当：岩崎 和之
 TEL：026-248-6471（直通）
 FAX：026-248-6473
 E-mail：bojo@pref.nagano.lg.jp